

所属・氏名（ 保健医療学部 救急救命学科 氏名：安田 康晴 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 救急現場における自動式人工呼吸器の使用に関する実態調査《筆頭論文》	共著	2020年2月	日本臨床救急医学会雑誌 23:36-41.	全国の救急現場での自動式人工呼吸器の使用実態を把握し、課題を抽出した。(6頁) 安田康晴、今井寛、森村尚人、横田順一郎他
2 (学術論文) 救急車サイレン音は自動車運転者に聴こえているかー自動車運転時の騒音とサイレン音量の比較ー 《筆頭論文》	共著	2019年4月	日本臨床救急医学会雑誌 22:51-4	救急車サイレン音は、自動車運転時の車内騒音より小さく、自動車運転者に聴こえていないため、基準の改正やサイレン音の種類を増やすなどの改良が必要であることを示した。(5頁) 安田康晴、山本弘二、友安陽子、坂口英児他
3 (学術論文) 救急自動車の振動と防振架台の効果と対策《筆頭論文》	共著	2015年4月	日本臨床救急医学会雑誌 18:5-14	救急車の防振架台は共振により車体振動より大きいいため、固定するなどの対策が必要であることを示した。(10頁) 安田康晴、二宮伸治、諫山憲司、竹井豊
4 (学術論文) Development of a first-responder dispatch system using a smartphone	共著	2014年3月	Journal of telemedicine and telecare. 20:75-81	ファーストレスポonderの出動体制にスマートフォンを活用したシステムの構築について、その効果を検証した。(7頁) Chikara Yonekawa, Masayuki Suzukawa, Keisuke Yamashita, Katsuki Kubota, Yasuharu Yasuda, et al.
5 (学術論文) MUSCLES USED FOR CHEST COMPRESSION UNDER STATIC AND TRANSPORTATION CONDITIONS 《筆頭論文》	共著	2013年1月	Prehospital Emergency Care. 17:162-9.	救急車内での胸骨圧迫の質低下について検討し、救急車内での胸骨圧迫は床に比べ使用筋肉群がことなることが判明した。(8頁) Yasuharu Yasuda, Yoshinori Kato, Katsuhiko Sugimoto, Shigeharu Tanaka, Naoya Tsunoda, Daisuke Kumagawa, et al.
6 (学術論文) 救急活動時におけるボディメカニクスの効果-ストレッチャー上げ動作時の検証- 《筆頭論文》	共著	2011年8月	日本臨床救急医学会雑誌 14:426-30	救急活動中のストレッチャーの上げ動作の筋活動を携帯型筋電計を用いて測定した結果、ボディメカニクスに基づいた動作では腰部筋活動が軽減することが判明した。(4頁) 安田康晴、加藤義則、熊川大介、田中重陽、角田直也
7 (著書) 改訂第10版救急救命士標準テキスト	共著	2020年4月	へるす出版	第1章病院前医療概論、第2章救急救命処置概論を執筆・編集した。231頁
8 (著書) 救急医療におけるメディカルコントロール	共著	2017年10月	へるす出版	救急医療に従事する医療従事者のメディカルコントロールについて執筆・編集した。80頁
9 (著書) 救急観察処置スキルマニュアル	単著	2015年1月	ぱーそん書房	救急救命士に必要とされる手技について画像とチェックリストを用いた教書。191頁
10 (著書) 救急現場活動シリーズ 「傷病者の搬送と移乗」 「感染対策」 「コミュニケーションと問診」	単著	2014年6月	へるす出版	救急現場活動に必要な知識と技術をまとめた教書。 66頁 57頁 79頁